

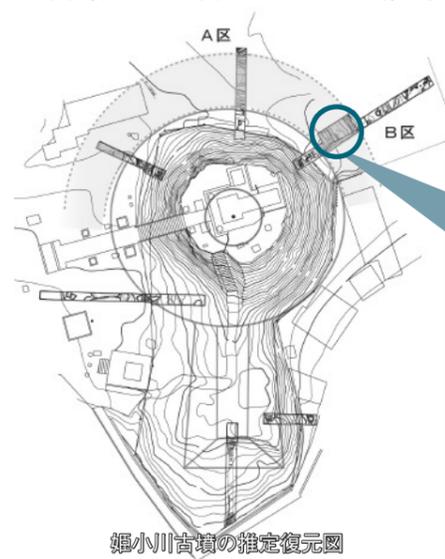
問▶文化財課(☎<77>4477)



が出土。また、堀の幅も急に広がることから、江戸時代に再整備していることがわかります。平成17年度の調査で、内堀も江戸時代の再整備を確認しているため、内・外の堀を、一連の工事で整備したと考えられます。なお、今回発見された堀は、以前から検討してきた、本證寺境内地復元案とほぼ一致。これも大きな成果といえます。

その結果、いずれの調査区からも周溝の立ち上がりがあり、おおよその大きさが確認できました。また、古墳の築造時期を特定できるような埴輪や葺き石は発見できませんでしたが、奈良時代の土器が出土しました。

周囲の鹿乗川流域には、西三河でも中心的な奈良・平安時代の集落跡が見つかっています。ほかに、鎌倉時代や戦国時代の遺構・遺物も



■**姫小川古墳(姫小川町)**  
姫小川古墳は、古墳時代前期の前方後円墳で、全長約66m。約20基ある桜井古墳群の一つで、二子古墳とともに、国指定史跡になっています。平成19年度の調査では、後円部の北側から西側にかけて、古墳に沿った大きな周溝(堀)の一部が見つかりました。

出土しているため、古墳築造後も、人々の生活が連続と営まれていたことが明らかになりました。



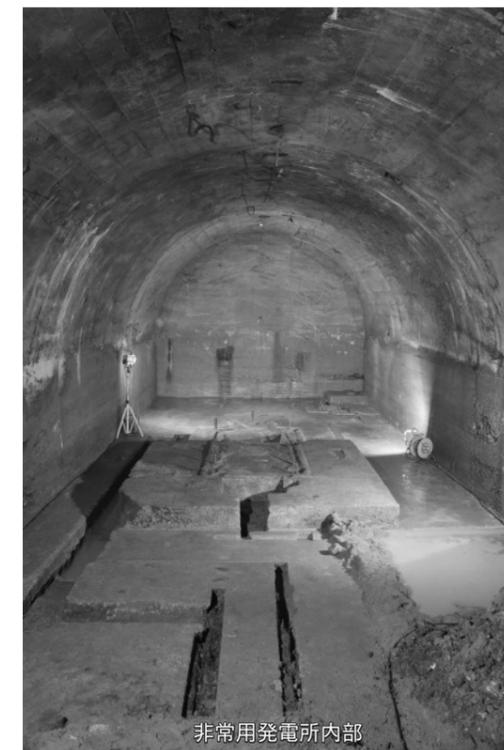
■**遺跡の調査にご協力を!**  
遺跡は、わたしたちの祖先の歩みを記録したかけがえのないもの。一度壊されると、二度と元には戻りません。市では、開発でやむを得ず破壊される遺跡を、事前に発掘調査しています。個人住宅の建て替え時にも、無料で調査に伺いますので、相談してください。

■**展示日時** 毎日午前9時～午後5時  
※(月) 例の翌日、年末年始を除く。



## 安城の遺跡 平成21年度の発掘調査から

安城市には、250か所を超える遺跡が確認されています。昨年度、埋蔵文化財センターで実施した発掘・調査の結果を、いくつか紹介します。

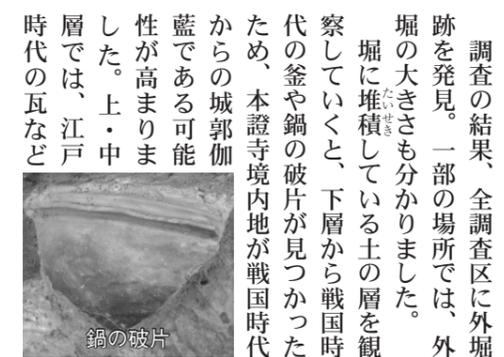


■**明治航空基地 非常用発電所(東端町)**  
明治航空基地とは、市南部(東端・根崎・和泉町付近)約200ヘクタールの平地に存在した旧日本海軍の航空基地(飛行場)です。昭和19年に完成し、6本の滑走路や格納庫などがありました。現在も、油貯蔵庫や防空壕などの戦争遺跡が残っています。このうち、東端町北部に所在する非常用発電所。この近辺で、ほ場整備事業が計画されたため、

緊急に調査しました。発電所の内部は、14・5m×5m、高さ4mのかまぼこ形。厚さ0.8～1mほどのコンクリートでおおわれ、半分地下に埋まっています。地表面は、外部から目立たないように、厚さ約1mの「三和土」と呼ばれる砂まじりの土で固めてあります。また、植物が全体を包むように生い茂っているため、まるで小高い丘のようです。

西側面には、2.5m×6.1m、高さ約3mの四角い出入り口が、地中でつきでいていました。これは機材の出し入れ口。内部中央には、ディーゼルエンジンで動いた可能性のある発電機を設置した基礎が残っていました。

戦後65年経った現在、戦争遺跡の価値が重要視されています。明治航空基地は、市登録の遺跡ではありませんが、発電所が単独で残っているのは全国でも数少なく、貴重な戦争遺跡といえます。



■**本證寺境内地(野寺町)**  
鎌倉時代後期に開かれたとされる本證寺は、古くから西三河の真宗門徒の中心寺院の一つ。周囲には、堀や土塁が二重に巡っています。こうした城のような作りを「城郭伽藍」と呼び、ここは、その代表的遺跡として、県の史跡に指定されています。

今回は、明治時代以降に埋められた、本證寺の境内地西南側を発掘。外堀の有無や範囲などを、4つの調査区に分けて調べました。

調査の結果、全調査区に外堀跡を発見。一部の場所では、外堀の大きさもわかりました。堀に堆積している土の層を観察していくと、下層から戦国時代の釜や鍋の破片が見つかったため、本證寺境内地が戦国時代からの城郭伽藍である可能性が高まりました。上・中層では、江戸時代の瓦など